

就活体験談



左芝慧 (サ・シゲイ) さん

国籍：中国
出身大学：神奈川大学大学院
専攻：経営学研究科国際経営専攻
日本留学期間：1998年4月～2009年3月
会社：株式会社アルプスビジネスサービス
日本語能力レベル：日本語能力試験1級、BJT:J1+

■日本での就職理由

日本の大学で学んだ理論知識を日本の企業に実践したいと思い、日本で就職することを希望しました。

■現在の勤務先の選択理由と担当業務

大学院にて「グローバル企業における人的資源管理」を研究してきたので、人材サービス企業に勤めることが一番だと思ったからです。

弊社は人材派遣会社であり、テクニカルサポート（技術開発・設計など）、オフィスサポート（一般事務、翻訳など）及びコンサルティング（教育研修、外国人雇用に関するサポートなど）を行っています。私は人材開発室に所属し、人材採用、社員教育研修及び外国人雇用に関するコンサルティング業務を担当しております。

日本で働いてよかったと思うことは、スキルアップの時間と機会を十分作って頂いたことです。

■企業への自己アピール

留学期間に学んだ専門知識を企業の発展に生かすことができるとアピールしました。そして入社後に担当したい業務を自ら伝え、その理由を十分アピールしました。

■就職活動開始時期と応募企業数

大学院へ入学してからです。就職活動のための情報収集は、自分の日課になりました。応募したのは2社です。

■具体的な就職活動内容

就職活動のためのサイトを利用しました。また奨学金をもらっていた財団からの求人情報も参考にしました。

■事前準備、企業研究

同じゼミの日本人学生から情報収集しました。そして常に指導教官に、進路について相談しました。

就職活動のスケジュールを作ることが一番難しかったです。

企業は本当に留学生を採用したいか、はっきりと分からない部分があり戸惑いました。

■エントリーシート、履歴書

職務経歴書は職務経験のほかにも、業績をはっきり書いたほうが良いと思います。

■面接

誠実な態度で正直に答えるように心がけました。

・日本でどのぐらい生活したいですか。いつか帰国する予定がありますか。

・5年後の自分像を話してください。という質問をされました。

■抱負と将来設計

今後の3～5年で、人材開発あるいは人事関係全般業務を把握したいです。

中国の人事労務制度を改善したいという夢があるので、今後も仕事をしながら世界の人事制度を勉強し続けます。

■先輩へのアドバイス

夢を諦めず、いつでも前向きに頑張ってください。



イ・ヨンホさん

国籍：韓国
 出身大学：中央大学大学院
 専攻：法学研究科
 日本留学期間：1998年～2004年
 会社：株式会社ミニミニ中央
 日本語能力レベル：日本語能力試験1級

■日本での就職理由

日本に来て学んだ日本のマナー、習慣、人間関係、考え方などを実際の生活にいかし、日本での生活の中でさらに勉強したいと考えていました。経済的な面でも日本がいいと思いましたので日本での就職を決めました。

■現在の勤務先の選択理由と担当業務

もともと不動産に興味があり大学の卒業論文は土地制度について書きましたし、日本の不動産の制度、契約の仕組みなども勉強したかったので不動産業界を希望しました。

普通の人の生活は衣・食・住が基本です。私が留学した際、衣・食はお金があれば買えましたが、住は保証人、大家さんの審査などでなかなか得ることができませんでした。そこで、私が不動産会社に勤めれば後輩に私の留学生活より少しでも良い生活環境を提供することができると思い、現在の会社を選択しました。

今は、大家さんと入居者との賃貸契約を担当しています。留学生にとって日本の賃貸契約は、自国と違うことがたくさんあります。マナー、生活習慣、ライフラインなどを説明し、留学生が日本の生活を楽しめるようにお手伝いしています。

■企業への自己アピール

外国人が入居する際、賃貸契約のときに起こるトラブルを、語学力をいかして解決できる点をアピールしました。大家さんは私を通じて外国人の入居者へ意思を伝えることができ、入居者も私を通じて自分の意思を誤解なく大家さんへ伝えることができるので安心です。これが両者の満足につながることもアピールしました。

■就職活動開始時期と応募企業数

博士前期課程を卒業して就職活動を始めました。4月中旬からでした。50社くらいエントリーして説明会に行きました。

■具体的な就職活動内容

マイナビ、リクナビ、日経就職ナビや、大学の就職センターも利用しました。

■事前準備、企業研究

ホームページと会社説明会に参加して、その資料を中心に調べました。自分と会社を分析し、どのように会社に貢献できるか、その会社で私はどのような役割を果たせるかについて考えました。私が果たせる役割を採用担当者に伝えられるような書類を作成するのが大変でした。

■エントリーシート、履歴書

アピール方法を工夫しました。また、この会社で働きたいという強い意思が表現できているかをよく確認しました。日本語は、日本人の友人に確認してもらいました。

■面接

自己紹介、志望動機、将来の夢、長所、短所などについて質問されました。とても緊張しましたが、私が考えていることをすべて表現するように心がけました。会話では、発音しやすく相手も理解しやすいような言葉を選びました。

■抱負と将来設計

今後、もっと多くの留学生の部屋探しをお手伝いし、「ミニミニのイさんにお願ひすれば、いい部屋を見つけられる」と言われるようになります。

■後輩へのアドバイス

一生懸命頑張って死ぬほど大変なのに、そこからさらにもう一步踏み出すことは想像するだけでも大変なことです。大変なところで一步踏み出すか踏み出さないかは自分次第ですが、踏み出す人と踏み出さない人とは、その後で大きな差が出ると思います。



ニコロワ・タチアナさん

国籍：ロシア
 出身大学：筑波大学大学院
 専攻：人間総合科学研究科芸術専攻
 日本留学期間：2004年4月～2011年3月
 会社：ジー・エス・エー株式会社
 日本語能力レベル：日本語能力試験2級

■日本での就職理由

元々日本に興味がありました。日本で学んだ知識や日本語を失いたくないので、日本での就職を希望しました。

■現在の勤務先の選択理由と担当業務

弊社では輸出入コンサルティング、中古医療機器販売の業務を行っています。私は翻訳、通訳、海外取引先との連絡、またそれに伴う書類作成や国内企業との連絡などを主に行っています。学生時代に翻訳や通訳をした経験があります。その経験が生かせると思い、現在の勤め先を選択しました。

自分の国と違うビジネスのやり方を学ぶことができます。また、毎日日本語の勉強ができることも日本で就職してよかったと思います。

■企業への自己アピール

医療分野において通訳・翻訳の経験を持っている点をアピールしました。

■就職活動開始時期と応募企業数

博士課程の1年生(2010年4月)からです。企業は約10社、大学や研究機関は30以上にエントリーしました。

■具体的な就職活動内容

利用したサイトはJREC-IN、Career Cross、Gaijin Pot Jobs、日経就職ナビ、b-cause、翼インターナショナル、Partnerなどです。また、A-visionやHiworkといった会社にも登録しました。

■事前準備、企業研究

企業のホームページです。日本語での筆記試験の対策が大変でした。日本人の学生よりも年齢が上なので、不利であると感じました。また、私は外国人であり、留学生には珍しい美術を専攻していました。そのため、私の専門知識を生かせる職種は、日本では非常に限られていると感じました。

■エントリーシート、履歴書

特に自己アピールや志望動機の書き方に注意しました。会社が求める人材がわからない場合は、自分の特技や希望をはっきり書くようにしました。

■面接

注意した点は、自信を持って、大きな声で答えることです。主観的な意見かもしれませんが、私にとっては難しいことでした。学歴や職歴、経験だけではなく、ロシアの習慣やロシア人の性格についても質問されたことに、とても驚きました。

■抱負と将来設計

日本だけでなく、ロシアでも新しいクライアントを開拓したいです。仕事を始めたばかりですが、これから頑張って目標を達成したいです。

■後輩へのアドバイス

日本語を学ぶことが一番重要だと思います。たとえ日本語能力試験の1級、2級に合格しても、それで終わりではありません。周りの日本人の言い方をよく聞いて、覚えて、毎日努力してみてください。そうすると、外国人の弱点である日本語力は、あなたの強みになるでしょう。



孫立超 (ソン・リツチョウ) さん

国籍：中国

出身大学：大阪大学

専攻：工学部

日本留学期間：2009年～

会社：住友ケミカルエンジニアリング株式会社

日本語能力レベル：BJT・J3

■日本での就職理由

日本のモノづくり技術だけでなく、日本会社の運営、管理、プロジェクトマネジメントを学びたいからです。また、日本での生活を通して、異文化体験もしたいと考えています。

■現在の勤務先の選択理由と担当業務

私は化学メーカーへの就職を目指していました。住友ケミカルエンジニアリング株式会社は化学プラント業界でのトップ企業で、優れた技術を持っていますし、海外へも積極的に展開しているの、魅力を感じていたからです。

事業内容は化学プラントを中心とした化学メーカーで、具体的には化学プラントの設計開発をしています。

■企業への自己アピール

来日した頃は日本語が話せませんでした。努力した結果、日本語で学会発表ができるまでになりました。この経験を踏まえて、私はどんなことでも向上心を持って積極的な行動があれば実現できること、また今後も困難を乗り越えてさまざまなことに挑戦する自信があることをアピールしました。

■就職活動開始時期と応募企業数

2010年2月から始めて、15社くらい応募しました。

■具体的な就職活動内容

採用情報を手に入れることが重要だと思います。日本人学生がよく使う「リクナビ」や「マイナビ」などを利用しました。留学生に対する就職サイトも活用しました。例えば JASSO、IFSA のホームページの就職活動情報をよく見っていました。また、所属大学で開催される就職イベントを活用すれば、その大学だけの情報を得ることができます。

筆記試験は、早めに準備することが必要です。SPI テストの問題集をしっかりとやってください。

■事前準備、企業研究

会社説明会です。説明会に行く前に、その会社のホームページをチェックしておけば、関心があることについて質問できます。説明会において、その会社の雰囲気などもわかります。そのため、自分の性格に合うかどうか分かります。また、他の人が書いた就職活動体験の日記を参考にしました。その会社の人事の方がどのような質問をするかがよくわかりました。

■エントリーシート、履歴書

自分の長所、経験、志望動機などを具体的な例を交えて説明しました。志望動機はしっかり考えなければなりません。そして自分の長所及び経験(大学で頑張ったこと)を十分にアピールしました。その内容が将来の業務に関係があれば、説得力があると思ったからです。

■面接

自信をもって、元気な返事することです。質問が分からない時はもう一度聞いてください。また、一番行きたい会社の面接を受ける前に、同じ業種の会社の面接に参加することで、面接の雰囲気に慣れることができます。何度も練習することが必要ですが、答えを暗記しなくてもいいです。正直に答えることが重要です。面接を受けた後は次回面接の準備のために、聞かれた項目などのメモをとるといいです。

■抱負と将来設計

技術だけでなく、いろんな部署や部門を経験してマネジャーになりたいです。また、日本企業と海外との架け橋になりたいです。

■後輩へのアドバイス

「人間万事塞翁が馬」という言葉の通り、不幸は前もって知ることができません。自信を持って取り組みれば、いい結果が生まれます。

いまだから話せる 日本の就活

悩み、苦しみ、失敗談など、日本での就活を体験した先輩たちの飾らない生の声をご紹介します。

面接の時などに、日本語で思っていることを正しく伝えることが難しかった。日本人学生と積極的に関わりを持つなど、普段から日本語によるコミュニケーションに慣れておくべきだと感じました。

中国 (女性)

とにかく就活をはじめるのが遅すぎました。私は工学部で、大学院に進もうと考えている人が多かったようで、まわりの日本人学生も、まったく就活をしていませんでした。自分の将来は、自分で切り開くべきです。

韓国 (男性)

Web エントリーをしようと思ったら、志望理由など長い文章の入力が必要だったので、ブックマークだけしておきました。気がついたときには、すでに締切り日を過ぎていて…。準備不足でした。

インドネシア (男性)

留学生を採用する企業かがわからなかったため、はじめからあきらめていました。ある時、同じ大学の留学生が、面接に行ってきたと聞いて、もっと積極的にアプローチすべきだったと思いました。

中国 (女性)

まったく準備をしないで、SPI を受けました。ベース配分もわからず、時間を使いすぎてしまいました。特に国語は、問題の意味を理解するだけでもたいへんです。十分な準備をしてから受験しましょう。

ベトナム (男性)

日本で就職した留学生の先輩が、まわりにいなかったため、日本企業がどのような理由で、留学生を採用するのがわからなかった。ある企業の面接では、どう答えるべきかに迷って、黙ってしまいました。

台湾 (女性)

在留資格の変更における留意点

せっかく内定を得ることができたのに、在留資格変更許可申請をしてみたら、「不許可」になってしまった。そんなことにならないために、気をつけておきたい点を整理しました。

■日本政府の基本姿勢

日本政府は、日本の大学などを卒業し、専門的な技術や技能、知識などを身につけた留学生のみなさんが、日本で就職して活躍されることを、大いに期待しています。一方で、いわゆる「単純労働」に属する分野の労働者の受け入れについては慎重に検討すべきとの考えから、該当する在留資格を設けていません。そこで、みなさんが就職活動を行うにあたって大切なことは、次の2点に合致する企業選択を行うことです。

- ① 日本で学んだ知識や技術を十分に生かせる仕事ができる企業
- ② 外国人ならではの思考や感受性を必要とする仕事ができる企業

■問題が生じやすいケース

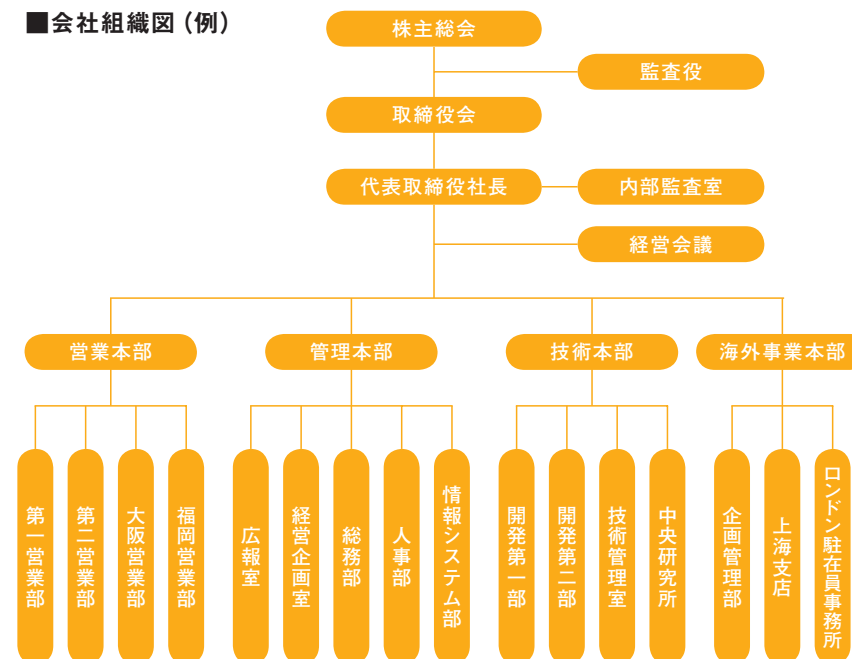
たとえば技術職や研究職、あるいは通訳など、専門職として採用しようとする企業は、上記①に該当します。一方、本社と海外拠点との調整役としての役割が期待されている場合などは、②に合致するでしょう。

しかしながら現実には、多くの企業が、新卒者に入社当初からそれほど高度な専門性を期待しているわけではありません。さまざまな部署に配属し、多様な仕事を経験させ、その過程で本人の意欲や適性を見極めながら、専門性を高められるよう教育していくほうが、むしろ一般的です。入社後は、まず生産拠点や販売拠点などに配属し、「現場を知る」ことを目的とした研修期間を設ける企業もあります。もちろん、こうした状況に配慮した審査がなされるようになってきていますが、研修期間が長期化したり、申請時の説明とかけ離れた状態が続けば、在留資格取消処分の対象にもなりかねません。少しでも不安を感じることがあれば、内定先の採用担当者などに、相談するように心がけましょう。

会社のしくみを理解しよう。

そもそも会社って、どのように成り立っているのでしょうか。その組織形態は、会社の事業規模やその目的によってさまざまですが、ここでは一般的な組織図をもとに、その成り立ちやしくみについて、ご紹介いたします。

■会社組織図(例)



- ① 会社は、その所有者である株主が、その経営を自らが選んだ取締役役に依頼するというかたちで成り立っています。
- ② 会社組織は、事業を推進するために必要な役割を担う、本部、部、課、グループなどで構成され、それぞれが担う役割を果たすための権限と責任が与えられています。
- ③ 各本部は、複数の部・室などで構成されています。さらに下層に課やグループがあるピラミッドのような構造が、一般的です。但し、部や室、グループなどの呼称やその階層関係は、会社ごとに異なります。

■年齢早見表

この表に表記している年齢は、誕生日以降の年齢です。誕生日までの年齢は、表記の年齢より1を引いてください。

元号	年号	西暦	年齢	干支
平成	24	2012	0	辰(たつ)
平成	23	2011	1	卯(うさぎ)
平成	22	2010	2	寅(とら)
平成	21	2009	3	丑(うし)
平成	20	2008	4	子(ねずみ)
平成	19	2007	5	亥(いのしし)
平成	18	2006	6	戌(いぬ)
平成	17	2005	7	酉(とり)
平成	16	2004	8	申(さる)
平成	15	2003	9	未(ひつじ)
平成	14	2002	10	午(うま)
平成	13	2001	11	巳(へび)
平成	12	2000	12	辰(たつ)
平成	11	1999	13	卯(うさぎ)
平成	10	1998	14	寅(とら)
平成	9	1997	15	丑(うし)
平成	8	1996	16	子(ねずみ)
平成	7	1995	17	亥(いのしし)
平成	6	1994	18	戌(いぬ)
平成	5	1993	19	酉(とり)
平成	4	1992	20	申(さる)
平成	3	1991	21	未(ひつじ)
平成	2	1990	22	午(うま)
平成	(元)1			
昭和	64	1989	23	巳(へび)
昭和	63	1988	24	辰(たつ)
昭和	62	1987	25	卯(うさぎ)
昭和	61	1986	26	寅(とら)
昭和	60	1985	27	丑(うし)
昭和	59	1984	28	子(ねずみ)
昭和	58	1983	29	亥(いのしし)
昭和	57	1982	30	戌(いぬ)
昭和	56	1981	31	酉(とり)
昭和	55	1980	32	申(さる)
昭和	54	1979	33	未(ひつじ)
昭和	53	1978	34	午(うま)
昭和	52	1977	35	巳(へび)
昭和	51	1976	36	辰(たつ)
昭和	50	1975	37	卯(うさぎ)
昭和	49	1974	38	寅(とら)
昭和	48	1973	39	丑(うし)
昭和	47	1972	40	子(ねずみ)
昭和	46	1971	41	亥(いのしし)
昭和	45	1970	42	戌(いぬ)

■就活用語集

就職ガイダンス

学校が主催する就職についてのガイダンスです。多くの学生に就職意識を持ってもらえるよう、どの大学でも就職指導に力を入れています。また、ガイダンスも1回だけという学校は少なく、何回かに分けてきめ細かな指導を行うところが増えてきました。就職状況の分析や就活にあたっての心構え、企業の人事担当者やOB・OGを招いての講演、エントリーシートを書き方、面接の受け方など、資料を用いて、ていねいに行う学校が多いようです。

キャリアセンター

学生の就職をサポートするため、各大学で設置している部署です。名称は学校によってキャリアセンター、就職課、就職部などさまざまですが、機能は同じです。キャリアセンターを訪ねたら、ただ資料を閲覧するだけでなく、職員にもどんどん話しかけてみましょう。どんな内容でも必ず親身になって対応してくれるはず。 「行きたい企業が見つからない」「なかなか内定がとれない」などの質問に対して、就職の専門家として、少しでも学生にとってよい就活が進められるよう、真剣に相談に乗ってくれるはず。

就活ノート

就活の情報をまとめて書いておくノートです。先輩たちも、就活に一番役立ったのは自分のつくり上げてきた就活ノートだったという人が多くいます。就活では同時並行でさまざまなことが進行します。就活が進むにつれ、複数のスケジュールや情報が交錯することもあるでしょう。覚えていなくても、うっかりミスが出ないともかぎりません。そうしたミスを防ぐためにも、しっかり情報を整理しておくことが重要です。就活ノートにはスケジュールだけでなく、面接の反省点や気づいたこと、説明会で聞いた情報なども書きとめておきましょう。これ一冊を見れば、活動状況がすべてわかる、という状態にしておくのが理想です。

キャリアデザイン

「キャリア」とは職業・経歴のことです。そして、「デザイン」とは設計・構想・計画のこと。つまり「キャリアデザイン」とは、仕事でどんな経験を積んでいきたいかを構想することをいいます。そして、その構想の基礎となるのが、自分は「こうなりたい」、「こうしていきたい」という思いです。自分なりのビジョンを持って、それぞれの将来をデザインしていくことを意識しましょう。

学内セミナー

大学で行われる合同企業説明会。学校主催のもの、学生・企業主催のものがあります。自分が通っている学校で話が聞けるため、気軽に友人たちと一緒に参加できます。また、学校のOB・OGが説明に来ることもあり、合同会社説明会や、企業の会社説明会などでは聞きにくい情報を得ることもできます。少人数で話を聞けるので、人事担当者に自分を印象づけるチャンスもあります。

職種別採用

初めから職種別に採用する採用方法のこと。通常は採用したあと、適性を見て配属を決めることが多いのですが、最近は、技術系採用、営業系採用など、入社前から職種を決める「職種別採用」を行う企業が増えています。その職種に適性と専門性を持った人材を厳選したいという企業の意志を示すものであり、学生から見れば、自分の専門や、やりたいことを確実に活かせる職に就けるというメリットがあります。

総合職

「総合職」とは、文字通り、総合的業務にあたる職であり、さまざまな職種を経験しながらキャリアを積み重ねていきます。この過程で、人事異動の際に、転居を伴う転勤の可能性もあります。まだ「総合職」は、昇進に限定のない職であって、多くの企業が将来の幹部候補として期待しています。

一般職

「一般職」とは、事務職や営業サポート職など、定型的・補助的な一般業務にあたる職であり、原則として転居を伴うような異動はありません。なお「一般職」で入社後、「総合職」に転換できる機会を設けている企業もあります。

Webテスト

インターネットを通じてWeb上で行う入社試験のこと。自宅や大学のパソコンを使って受験します。インターネットを使った就職活動が当たり前になった現在、一次選考としてこのWebテストを導入する企業が増えています。ただ、自宅や大学で受けられるからといって、くれぐれもリラックスモードで挑戦しないように。Webテストの特徴として、「短い時間制限で大量の問題が出る」「一度進むと後戻りして解き直すことができない」という点が挙げられます(テストの種類により異なります)。ということは、迷うヒマもなく次々と問題を解かなくてはならないということです。事前に問題集を繰り返し解き、万全の態勢で臨んでください。

教育制度

新人社員研修に始まり、社内での役職などに基づいて行われる階層別研修や、個々の職種に必要とされる知識や技能に関する職種別研修など、会社には人材育成のための、さまざまな教育制度があります。自分の入社後のキャリアアップをイメージするためにも、どのような教育制度があるのかをしっかりとチェックしておきましょう。

残業手当

早朝や深夜など、あらかじめ定められた勤務時間外に勤務した場合、あるいは休日に出勤した場合などに、その対価として支払われます。こうした超過労働に対する手当の支給は、法律によって義務づけられています。

※上記のような就活に関する基礎知識は、多くの就職情報サイトにも掲載されています。(P27: 主な就職情報サイト一覧を参照)